

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

| | |
|------------|---|
| Title | 現代ギリシャ語の空間指示表現と前置詞：存在／運動／移動の動詞との結合例の分析 |
| Author(s) | 橘, 孝司 |
| Citation | ニダバ, 20 : 58 - 71 |
| Issue Date | 1991-03-31 |
| DOI | |
| Self DOI | |
| URL | http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00047220 |
| Right | |
| Relation | |



現代ギリシャ語の空間指示表現と前置詞

— 存在／運動／移動の動詞との結合例の分析 —

橘 孝 司

0. 現代ギリシャ語で、空間における対象の位置をある基準点から相対的に「上方」「下方」などと定位して表現するには、二つの形態素の連続を用いる。

(1) Τπάρχει ένα βιβλίο πάνω στο τραπέζι¹).

「テーブルの上に本がある。」

(2) Ένα γατάκι κάθεται κάτω από την καρέκλα.

「椅子の下に猫が座っている。」

πάνω σε/ κάτω από の各々の最初の形態素 πάνω/κάτωは単独で副詞として機能し、二つ目の σε/από は前置詞として機能する。

以下の例から明らかかなように σε の基本義は Locative-Allative²)。

(3) Στο γραφείο ήμουνα, Τετάρτη βράδυ... Σ.ρ.13

「水曜の夜、僕は事務所にいた。」

(4) ξύλα απ'τους ναούς...πουλιώνταν στους δρόμους για φωτιά. A.p.3

「寺の木材が...焚き付け用として道端で売られていた。」

(5) Είπα να μου φέρουν καφέ και πήγα στο γραφείο μου. Σ.ρ.18

「コーヒーを持って来るように言うと、私は事務所へ行った。」

από の基本義は Ablative³)。

(6) Ο άνθρωπος από το αντικρινό πεζοδρόμιο ήρθε. Σ.ρ.16

「その男は向こう側の歩道からやってきた。」

このように現代ギリシャ語の相対的な空間指示表現は、副詞+前置詞という連続した二つの形態素によってなされる。

ところで、これらの空間指示表現において、副詞が全て σε/από のいずれとも結びつく訳ではない。ある副詞は σεと、別の副詞は απόと結合し、他のものは両者と結合し得る。それでは、いかなる副詞がいずれの前置詞を取り、両者と結び付く場合には、どのような違いがあるのだろうか。また、σε, από の基本義が Locative-Allative, Ablative であるならば、それぞれの前置詞句が移動を意味する動詞と結び付く場合、σεと από のいずれが選択されるのか。この二つの問題が本稿では検討される。その際とりあげられ

る副詞は πάνω「上方」 κάτω「下方」 μπροστά「前方」 πίσω「後方」 μέσα「内部」 έξω「外部」の六つである。

1. πάνω「上方」

この場合、σε と από の選択は Mackridge(1985 p.210)に、次のように端的に述べられている。

Cf. πάνω σε "above and in contact with" with πάνω από "above and no in contact with"

確かに、対象と基準点との間の「接触」によって、多くの例が説明され得る。

まず、対象がある場所(基準点)に接触している場合はσεが用いられる。

(7) Είχε κι αυτός πάνω στα γονατά του το περίστροφό του. Z.p.9

「彼も、膝の上に拳銃を載せていた。」

(8) Το γάλα είχε χυθεί πάνω στα ρούχα. Μι.p.11

「牛乳が衣服の上にこぼれていた。」

(9) Νοιώθοντας τη βροχή πάνω στους ώμους του... Π.p.56

「肩の上に雨を感じながら」

(10) προσφέρουν τη μύτη τους που την τρίβουν πάνω σ'αυτή του προσώπου που συμπάθησαν ! Ε2.p.48

「鼻を近寄せて、親近感を感じた人の鼻の上にこすりつける。」

(11) Σκουντούφλησαν πάνω στα κουφάρια. Α.p.13

「彼らは死骸の上でつまずいた。」

上例において、「拳銃」と「膝」、「牛乳」と「衣服」、「雨」と「肩」、「鼻」と「鼻」、「彼ら」と「死骸」との間には何らかの接触があると言える。

他方、接触を欠いている場合には από が用いられる。

(12) Ιρακινά αεροσκάφη πέταξαν πάνω από πέντε ιρανικές πόλεις. Ν.

「イラク軍機が五つのイランの都市の上を飛んだ。」

(13) Η κυρία ζει μόνη σ'ένα παράξενο παλιό σπιτάκι, σ'ένα λόφο πάνω από τις σιδηροδρομικές γραμμές. Κι.

「その婦人は線路の上の丘の奇妙な古い家に一人で暮らしている。」

(14) Πάνω από ολόκληρο το σπίτι και τη λίμνη πλανιόταν μια αλλόκοτη ατμόσφαιρα. Π.p.50

「館全体と湖の上を妖気が舞っていた。」

これらの例において、「飛行機」と「都市」、「丘」と「線路」、「妖気」と「館と湖」の間に直接の接触はない。しかし、話者が、対象が基準点に接触している、ととらえるか否かによって、言語外の現実の状況がほぼ同じであっても、両方の表現が可能な

場合がある。例えば、(14)と(15)とを比較のこと

(15) Τα κατασκότεινα σύννεφα που κρέμονταν τόσο χαμηλά ώστε πατούσαν πάνω
στους πυργίσκους του σπιτιού. Π.ρ.63

「真暗な雲はあまりに低く垂れこめ、館の小塔の上を踏まんばかりであった。」
πάνω σε を使った(14)では、館と湖の上空を妖気が漂っているようにとらえられている
(動詞は πλανιόταν「舞っていた」)のに対し、(15)では、雲の位置が低くて館に接して
いるかのようにとれえられている(動詞は πατούσαν「踏んでいた」)ので、πάνω από が
用いられている。

ところが「接触」という条件によっては説明しきれない例が存在する。

(16) Ανασήκωσε απ'τους ώμους το μπλέ κιμόνο πούφερε πάνω απ' το φιλό του
πουκάμισο. Α.ρ.11

「彼は薄いシャツの上に着ていた青い着物を肩から引き上げた。」

(17) Τώρα λανσάρει νέα μόδα, φορώντας καλσόν πάνω από την αθλητική της
αμφέση. Ν.

「彼女は今、競技用の衣装の上にストッキングをつけて、ニューモードを披露す
る。」

これらの例においては、実際上は、各衣服の間には接触があると思われるのに πάνω σε
ではなく、πάνω από が用いられている。しかし、ここで問題になっているのは、「シャ
ツ」と「着物」、「競技用衣装」と「ストッキング」の各々の一方が他方よりも上方(こ
の場合鉛直方向ではなく、身体から見て外側)に位置している、ということである。こ
のように、ある対象の・空間における単なる定位ではなく、(例えば「上下関係」のよ
うな)何らかの序列関係において、ある対象が他の対象にくらべて、より上位にあると
いうことを示す際には、接触の有無とは無関係に από が用いられる、と言える。この際
思い出すべきであるのは、上述のごとく、από の基本義が「ある位置からの移動」であ
ったことである。物理的な移動における出発点という概念は、より抽象的に、なんらか
の序列関係における比較の基準にも適用され得る。

(18) Εκείνος είναι πιο ψηλός από μένα.

「彼は私より背が高い。」

(18)では、「身長の高低」という序列関係中の「彼」の位置づけがなされているが、そ
こで比較の基準対象となる「私」は από で示されている。この比較の基準と先に見た接
触の有無が無関係ではないという点は、πάνω από を用いて数値を示す場合に明瞭に現れ
る。例えば、

(19) Εκείνοι που είναι πάνω από είκοσι χρονών.

は「二十才以上の者」ではなく、「二十才を過ぎた者」である。つまりこの句の意味に
は、「上方」を定位する基準点(ここでは「二十才」)が含まれておらず、それを除い

た「上方」（この場合「より高い年齢」）が意味されている。この点に関して、上例の(12)-(14)で「都市」「線路」等が前置詞句の示す意味範囲に含まれていないのと類似している。

次に、「上方」が移動の動詞と結び付いた表現を見ていこう。

「上方」への移動表現は、

(20) Τ' ἄφησα να πέσει πάνω στο κρεβάτι και βγήκε. Μι.ρ.29

「彼女はそれをベッドの上に落として、出て行った。」（「接触」あり）

(21) ακριβώς σαν να είχε πέσει μια βαριά, χάλκινη ασπίδα πάνω σε ασημένιο δάπεδο. Π.ρ.67

「ちょうど、重い青銅の楯が銀の床の上に落ちたかのように」（「接触」あり）

(22) Ο...πήγε πάνω από το αγοράκι και τότε η...πήρε ένα μικρό μαχαίρι και το "κάρφωσε" δυό φορές στην πλάτη του πατέρα του παιδιού. Μ3.

「彼は少年の上に行った（上から覆いかぶさった）。すると彼女は小さなナイフを取り、子供の父親の背中を二度 "突き刺した"。」（「接触」なし）

「上方」からの移動表現は、

(23) Το πήρα πάνω από το τραπέζι.

「私はそれをテーブルの上から取った。」（「接触」あり）

ただし、次の文(24)をギリシャ人に示して、「テーブルの上に座っている人に向かってそこから降りるように言う場合、どのような表現をするか?」と尋ねると、

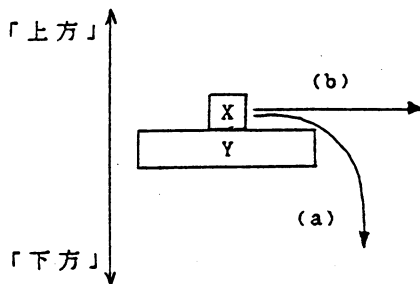
(24) Του είπα να κατέβει πάνω ---- το τραπέζι.

こういう場合、πάνωは使わず、κάτω απόが自然である、という答を得た。すなわち、(25)のようになる。

(25) Του είπα να κατέβει κάτω από το τραπέζι.

「私は彼にテーブルの（上から）下に降りるように言った。」

(23)と(25)との違いは次の点にある。ある基準Yの「上方」に存在している対象Xが、そこから移動する際、二通り考えられる。「上方」「下方」という二つの極を持つ軸に沿って、「上方」とは反対の極、すなわち「下方」へ移動する場合(a)とその軸とは無関係に移動する場合(b)とである。後者において、もっとも明瞭なのは、軸と直角方向に移動する場合であろう。例(23)は(b)であり πάνω απόにより表現される。(25)は(a)であるが、「上下」の軸に沿って「上方」から遠ざかるということは、同時に、「下方」へと近づくということであるから、これを κάτω απόで表現している。



(26) Το νέφος δε λέει να ξεκολλήσει πάνω από τα κεφάλια μας⁵⁾

「スモッグは我々の頭上から離れ去ろうとしない。」(「接触」なし)

最後に、「上方」を通過する場合の表現を見てみなければならない。というのは、ギリシャ語で「--を通る」という表現をする場合、もっとも一般的な動詞は περνώ であるが、これと結び付くのは対格形の名詞ではなく、από+名詞である⁶⁾。

(27) Πέρασε αργά από την άλλη άκρη της αίθουσας. Π.

「彼女はゆっくりと広間の反対側を通って行った。」

そこで、ある対象が基準点の「上方」「下方」等を通過した場合、どちらの前置詞が選ばれるのかが問題となる。

(28) Μπορεί γιατί περνάνε πολλές ντεβέδες πάνω στο γιοφύρι. Κ2.p.190

「たくさんのラクダが橋の上を通っているからかも知れない。」(「接触」あり)

(29) Ένα κοπάδι πουλιά πέρασε πάνω από το λιμάνι⁷⁾.

「鳥の群れが港の上を通り過ぎた。」(「接触」なし)

(20)-(29)から明かなように、「上方」に関しては、たとえ移動の動詞と結び付いても、「上方」からの移動を除いて)その方向性には関係なく、σε/απόの区別が保たれている。

2. κάτω「下方」

一般に、κάτω は από とのみ結び付くとされている⁸⁾。

(30) Στεκόταν ορθή και τεντωμένη κάτω από τόξα των αφίδων. Φ.p.29

「彼女はアーチの丸天井の下で立ちすくんでいた。」

(31) κάτω απ'τον απέραντο ουρανό βρίσκεται έτσι μέσα στην (δια ενέργεια της φύσης. Κ2.p.12

「無限の空の下で、彼はこうして自然の同じ活動の中にいる。」

これらの例において、対象(「彼女」、「彼」)と定位の基準点(「丸天井」、「空」)と間に接触はない。この点は πάνω απόと同じである。他方、対象が基準点の「下方」に接触している場合はどのように表されるのだろうか。例えば、ノートの下に直接置かれた新聞を指している場合は、

(32) η εφημερίδα κάτω από το τετράδιο. 「ノートの下の新聞」

となる。あるいは次の例でも対象は基準点に接している。

(33) κρατώντας τα τετράδια κάτω απ' την μασχάλη της... Μ1.p.24

「脇の下にノートをかかえながら」

(34) βρέθηκαν στην θάλασσα κάτω απο όγκους τσιμέντων, σίδερων και χωμάτων.N.

「彼らは海の中でセメントと鉄と土の塊まりの下敷になった。」

つまり、「下方」の表現では、「接触」という条件は初めから顧慮されていない。

これに対し、*κάτω σε* の意味論的分析については、橋 (1989)p.60-61を参照していただきたい。

さて、「下方」表現が移動の動詞と結び付く場合を見てみよう。

「下方」からの移動には

(35) Το σκυλί βγήκε κάτω από το τραπέζι.

「犬がテーブルの下から出てきた。」

のように *κάτω από* が用いられる。この点は、*από* の基本義 Ablative に一致するのに見える。ところが、「下方」への移動も、次に見るように、*κάτω από* が使われる。

(36) Η Ιωάννα, εντελώς απροσδόκητα, χώθηκε κάτω από μια χαμηλή καμάρα. Φ.ρ.33

「ヨアーナは全く予期せず低い丸天井の下に駆け込んだ。」

(37) Το γατάκι μπήκε κάτω από το τραπέζι τρέχοντας πίσω από το ποντικάκι.

「猫は小ねずみを追いかけてながらテーブルの下に入った。」

(38) Έβαλα το βιβλίο σου κατώ από το λεξικό μου.

「君の本は僕の辞書の下に置いたよ。」

従って、*κάτω από* における *από* は移動の出発点を指しているおらず、動詞の移動の方向性とは無関係であることになる。

以上見たように、*κάτω* 「下方」については、対象と基準点間の「接触」の有無、移動動詞の方向性とは無関係に常に *από* と結び付く。

最後に「通過」の場合も *από* を取る。

(39) Το ποτάμι περνάει κάτω από μια γέφυρα⁹⁾.

「川は橋の下を流れる。」

3. *μπροστά* 「前方」

μπροστά 「前方」は *σε*、*από* とともに結び付き、意味に区別がないものに分類されている¹⁰⁾。

(40) *μπροστά στην* (または *απ'την*) *πόρτα* 「戸の前で」

しかしながら、両者の差異が現れる場合が幾つかある。まず、次のような例では、*μπροστά* は *σε* とのみ結び付く。

(41) (テレビの前に立ってテレビを見ている人を指して)

Εκείνος στέκεται μπροστά στην τηλεόραση.

「彼はテレビの前に立っている。」

これに対し、同じ「テレビの前」でも、話者の視線を遮る位置に立っているならば、

(42) Εκείνος στέκεται μπροστά από την τηλεόραση.

「彼はテレビの前に立っている。」

となる。また、新聞に掲載されたある写真——柵ごしに広島原爆ドームを眺める親子——の説明文は、

(43) Μια οικογένεια Ιαπώνων μπροστά στα ερείπια του κτιρίου--- μνημείου στη Χιροσίμα. N.

「建物の廃墟——広島記念碑——の前の日本人家族」

とあった。したがって、対象の視線が基準点に向いている場合に *σε* が用いられるようである。しかしながら、筆者が新聞、雑誌から収集した写真の中には、例えば、戦車の前に立って、正面（カメラのレンズの方）を向いた女優について、

(44) δεν παράλειψε να φωτογραφηθεί... μπροστά σε τανκ. E1.

「彼女は戦車の前での写真撮影も忘れなかった。」

と説明されていたりするものが多い。それらの例においては、対象の視線が基準点とは正反対の方向に向いている。それゆえ、対象の視線は、*σε* が用いられるための必要条件というわけではない。

他方で、「上方」について述べた際、二つの対象の序列関係が問題となる場合には、*από* が用いられるのを見たが、「前方」の場合もこれと同様のことが言える。

(45) (バス停に並んでいる人々の列を見ながら)

--- Ποιος είναι ο Γιάννης ;

--- Εκείνος που περιμένει μπροστά από τον κύριο με το καπέλο.

「どの人がヤニスですか？」

「帽子をかぶった男の人の前で待っている人だよ。」

(46) και έτσι ο Βρεττανός διατήρησε το αργυρό μετάλλιο των 100μ. μπροστά από τον Κάλβιν Σμιθ και πίσω από τον Λιούις.

「かくして、そのイギリス人選手は、カルビン・スミスの前、ルイスの後で100Mの銀メダルを確保した。」

「上方」は、序列関係の表現では、*από* と結び付き、単なる空間での定位の場合には、「接触」という条件によって、*σε/από* を使い分けていたが、「前方」も、序列関係では *από*、空間における定位には *σε* と使い分け、さらに、対象の視線が基準点に向かっている場合は *σε* を選択するようである。

次に、*μπροστά* が移動の動詞と結び付く場合について見ておく。

「前方」への移動は

(47) Να πάτε αυτά τα κουτιά μπροστά σε/από το μαγαζί του.

「これらの箱を彼の店の前に持っていくように。」

のように *σε, από* ともに可能。この場合の区別は、上述の「前方」での存在・運動の場合と並行しているのではないかと考えられるが、細部の検討は今後の課題としたい。いずれにせよ、移動の動詞と結び付いたからと言って、常に *σε* が選択されるわけではない。

例えば、(48)。

(48) καταθέτει στεφάνι μπροστά από τη λήκυθο, όπου φυλάσσεται η καρδιά του Ναυάρχου.

「彼は、海軍大将の心臓が納められている壺の前に花輪を置く。」

「前方」からの移動は、

(49) Να πάρετε τα κουτιά μπροστά από το μαγαζί του.

「箱を彼の店の前から取るように。」

しかし、例えば、ホテルの前で待ち合わせをしていた人がそこを去った場合は、

(50) Έφυγε (? μπροστά) από το ξενοδοχείο.

「彼はホテル (の前) を去った。」

であって、μπροστά のない方が自然である。

対象がある基準点の前を通過した場合は μπροστά από が用いられる。

(51) Ένα ασθενοφόρο πέρασε μπροστά από το σπίτι μου.

「救急車が私の家の前を通った。」

これと並べてみるならば、対象がある基準点の前方で停止した場合は、μπροστά σε が用いられがちである。

(52) Ένα ασθενοφόρο σταμάτησε μπροστά στο σπίτι μου.

「救急車が私の家の前に止まった。」

4. πίσω「後方」

πίσω は από とのみ結び付くと分類されている¹¹⁾。

(53) Τα αεικίνητα μάτια του πίσω από τα τετράγωνα μαύρα γυαλιά. Z.p.9

「四角い黒眼鏡の後ろの絶えず動く眼」

(54) Το ποντικάκι κρύφτηκε πίσω από το δένδρο.

「小ねずみは木の後ろに隠れた。」

この点に関して、また、πίσω σε の連続が副詞+前置詞の並列に過ぎない点でも κάτω「下方」の場合とよく似ている。次の文ペアを参照していただきたい。

(55) Εκείνος έτρεξε πίσω από το σπίτι του.

(56) Εκείνος έτρεξε πίσω στο σπίτι του.

(55)の意味は「彼は家の後ろへ走って行った」であるのに対し、(56)は「彼は家に走って帰った(例えば忘れ物を取りに)」である。すなわち(55)では、「家」を基準として、それより「後方」の場所が問題になっているが、(56)で述べられているのは、ある基準点(最初に彼のいた地点)から見て「後方」であり、同時に、そこが「家」の位置でもある。

さらに、対象と基準点との接触の有無にかかわらず、つねに από が用いられる点も

κάτωと同じである。例えば、鉄柵のむこう側にしがみついて、こちら側(カメラの方)を見ている生徒達の写真の説明は(57)のようであった。

(57) Πίσω από τα κάγκελα οι μαθητές, μπροστά η Εισαγγελέας. N.

「鉄柵の後ろには生徒らが、前には検事が。」

「後方」への移動については(55)あるいは(58)に見られるように πίσω από が用いられる。

(58) Έριξε σκουπίδια πίσω από τον καναπέ.

「彼はゴミをソファの後ろに投げた。」

「後方」からの移動・通過も(59)(60)に見るように πίσω από が用いられる。

(59) Το ποντικάκι βγήκε πίσω από το δένδρο.

「小ねずみは木の後ろから出てきた。」

(60) Κάποιος πέρασε πίσω από το δένδρο.

「誰かが木の後ろを通った。」

5. μέσα「内部」

σεと結び付くと、Inessive-Illative「内部における存在・運動—内部への移動」の意味になり、απόと結び付くとElative「内部からの移動」の意味を持つ¹²⁾。

(61) Ποιος μπορούσε νάναι τέτοια ώρα μέσα στη θύελλα; A.p.11

「誰がこんな時間嵐の中にいたりするだろうか?」

(62) Οι χυμοί κυκλοφορούσαν αθώρητοι μέσα στους γυμνούς κλώνους. K2.p.14

「樹液が、外から見える事なく、裸の枝の内部を循環していた。」

(63) Τάβαλα μέσα στο συρτάρι.

「私はそれらを引出しの中に入れた。」

(64) Βγήκε μέσα από το σπίτι.

「彼は家の中から出た。」

これらの μέσα σε/από の意味は、σε/από のそれぞれの基本義 Locative-Allative「場所における存在・運動—場所への移動」、Ablative「場所からの移動」と並行している。

さらに「内部」の通過については

(65) περνούσα μονάχος καβάλλα στο άλογο μου μέσα από μια παράξενα ερημική περιοχή. Π.p.48

「私は一人馬に乗って、奇妙な荒涼とした土地の中を通っていた。」

(66) Οι παίκτες...φτάνανε δίπλα στο καλάθι για ν'αφήσουν τη μπάλα να περάσει μες απ'αυτό¹³⁾. N.

「プレーヤー達はバスケットのゴールのそばに達すると、ボールをその中に通していた。」

以上から明かなように、「内部」における σε/από の使い分けは「上方」「前方」において見たような、接触の有無、定位と序列の区別に基づくのではなく、前置詞と結合した動詞の移動の方向性によっている。

6. έξω 「外部」

「外部」における存在・運動の表現には από のみが用いられる¹⁴⁾。

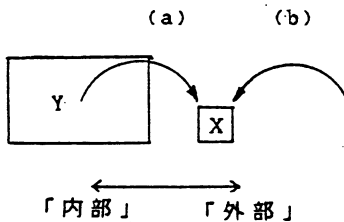
(67) Το πρατήριο βενζίνης στο 217,8ο χιλιόμετρο έξω από την πόλη. Σ.ρ.69

「街の外ニキロメートルのところにある、217号線沿いのガソリン・スタンド。」

(68) Η Μαρία περίμενε έξω από το σπίτι.

「マリアは家の外で待っていた。」

「上方」からの移動と同様、「外部」への移動には二通りの可能性がある。「外部」は



「内部」と対概念をなしているのだから、「外部」へ向かって、「内部」から移動する場合 (a)とどこか他の場所から移動する場合 (b)とである。(b)の例として(69)、(a)の例として(70)が挙げられる。しかしながら、この両者は、表現面では区別されず、いずれも έξω από が用いられている。

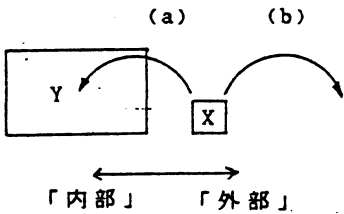
(69) Πολλοί τραπεζικοί πήγαν έξω από το κεντρικό κατάστημα...και έκαναν συγκέντρωση διαμαρτίας. M2

「多くの銀行員が...中央店の外へ行き、抗議集会を開いた。」

(70) Ο Γιάννης βγήκε έξω από το σπίτι.

「ヤニスは家から外へ出た。」

これに対し、「外部」からの移動の場合も、その到達点はその対極、すなわち「内部」



である場合 (a)とどこか他の場所である場合 (b)とが考えられる。(b)の場合、(71)に見るように、έξω がない方が自然な文である。他方、「外部」から「内部」へと移動する場合 (a)には、(72)に見るように、到達点が「内部」である点に知覚の重点が置かれ、μέσα σε で表現される¹⁵⁾。

(71) (家の外で待っていたマリアがそこを立ち去った場合)

Η Μαρία έφυγε (? έξω) από το σπίτι.

「マリアは家(の外)から去った。」

(72) Η Μαρία μπήκε μέσα στο σπίτι.

「マリアは家の中に入った。」

7. さて、これまでみてきた「上方」「下方」「前方」「後方」「内部」「外部」表現における前置詞の選択をまとめてみるならば、次のようになろう。

$$X \begin{pmatrix} \text{πάνω} \\ \text{κάτω} \\ \vdots \\ \vdots \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \text{σε} \\ \text{από} \end{pmatrix} Y \text{ において} \quad (X \text{ は対象、} Y \text{ は基準点)}$$

| | | Y での 存在/運動 | Y への 移動 | Y からの 移動 | Y の 通過 |
|-----------------|---------------|---------------|------------|-------------|-----------|
| πάνω 「上方」 | 接触有り 空間定位 | σε | από | από | σε |
| | 接触無し 序列関係 | | | | |
| κάτω 「下方」 | | από | | | |
| μπροστά 「前方」 | 対象の向き 空間定位 | σε | (από) | από | από |
| | 序列関係 | από | | | |
| πίσω 「後方」 | | από | | | |
| μέσα 「内部」 | | σε | από | | |
| έξω 「外部」 | | από | (από) | από | |
| 副詞を伴わない 場合 | | σε | από | | |

この表に見られるように、「上方」「前方」が前置詞により細かく表現し分けられる

のに対し、「下方」「後方」はそのような区別に無頓着である。「上方」「前方」におけるこの区別は、しかし、移動の動詞の方向性とは直接関係していない。これに対し、「内部」はその方向性と関連しており、副詞を伴わない場合のσεと απόの区別と一致している。さらに、「内部」と対概念をなすと思われる「外部」も、「下方」「後方」同様、 από とのみ結び付き、統語・意味論的に、両者は対称的なふるまいをなしていない。これらのことは、人間の空間把握の非対称性と関連づけられるように思う。Lyons(1977)に述べられているように、「上下」「前後」関係は対概念をなすけれども、人間の知覚にとって、ある極性 polarity を持っている。つまり、「上方」「前方」に位置する対象は、「下方」「後方」に存在する対象よりも、知覚が容易であり、したがって、「上方」「前方」の方がより positive な面を持つ¹⁰⁾。現代ギリシヤ語においては、この知覚上の polarity が、言語体系中でのカテゴリーの細分化の度合いという点に、明瞭な形で反映されているように思われる。

本稿は橋(1989)で取り扱ったテーマをさらに拡大し、その後の研究成果を取り入れて書き改めたものである。その骨子は、第20回西日本言語学会(1990年9月於広島大学)で発表しておいた。

註

- 1)本稿で掲げた用例は、注記してある場合を除いて、新聞・雑誌・小説(以下の引用資料を参照のこと)及びギリシヤ人のインフォーマントから収集したものである。インフォーマントになっていただいた方の御名前を次に記し、感謝の意を表したい。

Νικόλαος Γ. Κοντοσόπουλος

Θεόδωρος Μάλλωσης

Σπύρος Πετρίτσας

Ευαγγελία Γιαννούλη

- 2)σε は直後に冠詞を伴う場合の異形態として σ を持つ。

- 3)ただし、Ακαδημία Αθηνών:Ιστορικόν λεξικόν της νέας ελληνικής.τομ.2,p.420 には από の持つ意味の一つとして、次のような記載がある。

Την εν τόπω σχέσιν μετά ρημάτων στάσεως σημαντικών.

例:Κοιμάται αποκεί απ'την άλλη κάμαρα.

Δεν είναι δω, είναι απ'τ'άλλο σπίτι.

Κάθισε από την άλλη μερεά.

- 4)p.210. Joseph & Warburton(1987)p.142-3の記述からも同様のことが読み取れる。
5)例文は Mackridge(1985)p.210より

- 6) Τζάρτζανος(1946)p.186ff.
 7) 例文は Mackridge(1985)p.212より。
 8) 関本 p.145
 9) 例文は Mackridge(1985)p.212より。
 10) 関本 p.146
 11) 関本 p.145
 12) 関本 p.144,146
 13) μεςは μέσαの異形態。
 14) 関本 p.146
 15) 「内部」へ・からの移動の場合、(a)(b)のような区別はなく、「外部」から・への移動しか考えられない。対概念であるはずの「内部」「外部」が、7.でみるように、前置詞との結合において平行していないのは、この点に関係があるのかもしれない。
 16) Lyons(1977)p.691。橋(1989)p.63には、そこからの一節を引用しておいた。

引用資料

- A.: Ακουτάγκαβα, P., Ρασόμον. Μετάφρ. Κυριάκου Νεαπούλου(1970)
 E₁.: Ελευθεροτυπία. 27-4-1989
 E₂.: Ένα 3. 17-1-1990
 Z.: Ζεράρ ντε Βιλλιέ, Ζητώ ο Γκουέβαρα ! Μετάφρ. Τάσσως Καβαδία(1970)
 K₁.: Η Καθημερινή. 1-3-1988
 K₂.: Κείμενα νεοελληνικής λογοτεχνίας. Α΄ γυμνασίου. Αθήνα.(1982)
 M₁.: Μαυροείδης, Κ.(1963) Στιγμές. Εκδοτικός οίκος Γ. Φεξη.
 M₂.: Μέγα Channel. 3-9-1990
 M₃.: Η Μεσημβρινή. 10-12-1988
 N.: Τα Νέα. 23-6, 24-6, 26-7, 1-8, 6-8, 5-10, 11-8-1988
 Π.: Πόε, Ε.Α., Ο χρυσός σκαρβαλός. Εκδόσεις Γαλαξία.
 Σ.: Σαμαράκης, Α.(1965) Το λάθος.
 Φ.: Φακίνου, Ε.(1989) Η μεγάλη πράσινη. Εκδόσεις Καστανιώτη.

参考文献

- Boretzky, N. (1969/70) Ein semantischer Turzismus in den Balkansprachen.
Zeitschrift für Balkanologie. 1/2 p.16-21
 Joseph, B.D. & Warburton, I.P. (1987) Modern Greek. Croom Helm.
 Lyons, J. (1977) Semantics vol.2. Cambridge Univ. Press.

Mackridge, P. (1985) The Modern Greek Language Oxford Univ. Press.

Mirambel, A. (1949) Grammaire du grec moderne. Paris.

Traugott, E.C. (1978) On the expression of spatio-temporal relations in language. Universals of human language. vol. 3, p. 369-400
(ed. by J.H. Greenberg)

Δημητράκος, Δ. Μέγα Λεξικόν όλης της ελληνικής γλώσσης Αθήνα

Τζάρτζανος, Α.Α. (1946:1989) Νεοελληνική Σύνταξις Α΄. Θεσσαλονίκη.

関本 至 (1968) 「現代ギリシャ語文法」大阪

橘 孝司 (1989) 「現代ギリシャ語の空間指示表現について」『プロピレア』第1号

吉田集而 (1980) 「指示詞にみられる空間分割の類型とその普遍性」『国立民俗博物館研究報告』第5巻4号